



# Newsletter

三井ボランティアネットワーク事業団 Mitsui Volunteer Network Center

## 新年度のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団 理事長 小野寺 文敏

昨年7月、山内前理事長の後任として理事長に就任いたしました。

日頃は三井ボランティアネットワーク事業団の活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。新年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本事業団は、高齢化社会の到来を見据え、高齢者が積極的に社会活動に参加し活躍するための場を社会に提供するため、三井グループ各社の尽力により1996年に設立されました。設立以来四半世紀を経過し、本年は26年目を迎えます。

シニアの生き甲斐づくり支援を目的とする本事業団は、三井グループの枠を超えた社会貢献活動へと発展・進出を遂げ、三井グループ運営会員各社(2021年度・20社)のOB・OG会員に加え、一般の方々にもご参加いただき、現在のボランティア登録会員数は、約1,500名(2021年3月末現在)となりました。

具体的な活動分野は、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育、⑤スポーツなどの多岐な領域に及び、コロナ禍以前の2019年度は年間延べ10,000名を超える会員の皆様にご参加いただき、活動関係先からも高い評価をいただいております。

しかしながら、2020年初春に発生した新型コロナウイルスの影響により、多くの活動が中止、または延期を余儀なくされ、2021年度は2020年度と比較すると活動再開の機運が一時盛り上がったものの、年間を通してみると依然として活動に大幅な制約を受けた一年となりました。

ただし、国際交流の主活動である留学生との一対一交流は、関東では東大柏や横浜国大など、関西では神戸大などで、2020年度に続いて2021年度もオンラインによる交流が活発に行われ、コロナ禍で不安に陥っている留学生をサポートすることができました。

また、昨年秋には、コロナ禍が小康状態となったため、東



京本部では、荒川クリーン・アップ(河川敷の清掃)を再開、さらに、エリザベス・サンダース・ホームの澤田美喜記念館の清掃などを実施しました。

関西支部では、感染防止に留意しながら、年度を通じて司馬遼太郎記念館、キッズプラザ大阪(以上大阪府)、旧三井家下鴨別邸(京都府)などの文化施設、および大阪府済生会中津病院などでのボランティア活動に参加いたしました。

中国支部でも、感染防止策を講じながら、一部の中止期間を除き、恒例となった広島平和記念公園での清掃活動などを実施しました。

およそ2年にわたるコロナ禍のため、社会や経済の円滑な活動が阻害され、未だに本来の姿でのボランティア活動は再開できておりませんが、このような状況下にもかかわらず、ご参加いただいた会員の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、本事業団の今後の課題といたしましては、①ウィズコロナ、アフターコロナの時代における新しいボランティア活動のあり方の検討、②新規ボランティア登録会員の拡大、③運営会員会社の拡大、の3点が挙げられます。

まず、ウィズコロナ、アフターコロナという生活様式に合わせた新しいボランティア活動のあり方はどうあるべきかについて、会員会社の運営委員の皆様や会員の皆様と継続的に議論を深めてまいります。

また、定年や雇用の延長に伴い、会員の方々の高齢化が進んでおり、新規会員の拡大が喫緊の課題となっています。会員会社のOB会等での告知を推進するとともに、定年を迎える前の現役世代に対して、キャリア研修等の機会を活用しつつ、本事業団の認知度アップを図ってまいります。

さらに、運営会員会社の拡大につきましては、二木会・月曜会メンバー会社の未加入会社への新規加入、および休会社への復会の勧誘に引き続き取り組んでまいります。

本事業団といたしましては、今後ともボランティア活動を通じて社会的な貢献に努めるとともに、三井グループのCSR活動の一翼を積極的に担い、さらなる三井ブランドの価値向上を目指してまいります。

引き続き、会員会社ならびに会員の皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

**コロナ禍での一対一交流****横浜国大会 八木 勝司 (商船三井 OB)**

ヴィライヴォンさんと筆者

コロナ禍により私たちの活動は大幅に縮小することとなりました。一対一による対面での交流は困難となりました。今や大学側による外国からの新入留学生の受け入れもほぼ止まっています。

そんなコロナ禍で私は5名(エチオピア、ガーナ、スリランカ、バングラデシュ、ラオス)の学生と交流を行ってきました。

彼らのほとんどが世界銀行の奨学金を受けた政府関係機関等で働く職員で、修士課程で学んでいます。最近は家族帯同が増え家族のケアも必要となり、いろいろな相談を受けました。

コロナ感染が始まり対面交流が難しくなりつつあった2020年3月、4月にかけて留学生より、「安くて広い住居に替えたい」、「幼児を保育園に通わせたい」といった相談があり、関係先に同行して通訳兼交渉に当たりましたが、一回ですんなり済むことはなく、マスク等感染対策をして数回同行をしたものです。今振り返ると対面交流がぎりぎりの中、彼らと歩き回った頃が懐かしく思い出されます。

それ以降の対面交流は困難となり、メール等での交信に代わり、コロナ禍以前のような対応ができなくなりました。そうした中、スリランカの学生が本国に一時帰国しましたが、感染拡大で半年近くも出国ができず、修了式一か月前に何とか日本に帰ることができ喜びを分かち合ったものです。

今は彼らも修士課程を修了し、それぞれ本国に戻り、時折メールでの連絡を受け、元気であることで安堵しています。

コロナ禍以前では当部会の交流留学生は83名の登録がありましたが、今や受け入れがストップし激減しています。

私も今はラオスの女子学生のヴィライヴォンさんののみとなりました。彼女も今年の9月に博士課程を修了し、5年の日本での生活を終え本国に戻ってしまいます。それまでに早くコロナ禍が収束して、また普段通りの対面での交流に戻れればと願っています。

**湘南倶楽部 ESH清掃活動再開の日****湘南倶楽部 石塚 洋 (東芝 OB)**

2021年11月27日(土)、「湘南倶楽部エリザベス・サンダース・ホーム(以下ESH)の清掃活動」が再開されました。

昨年3月以降コロナ緊急事態宣言発令でESH園内清掃活動は休止していたので、何と1年10か月ぶりの再開でした。

当日午前10時、17名の仲間が入り口での「検温」「手指消毒」を済ませ、澤田美喜記念館玄関前に元気に集い、久々の再会に「歓喜のあいさつ」を交わしました。

早速事務局より当日の作業方法とエリアについての説明を受け、新規加入会員の自己紹介後、3班に分かれ作業が開始されました。「記念館周辺の落ち葉掃き」「30段ある記念館の石段清掃」「記念館正門入り口:踊り場の除草作業」を行うことになりました。

落ち葉は時節柄、記念館周辺を埋め尽くす程の積もり様でした。記念館のある丘の上は少々風もあり折角集めた落ち葉が逆風に吹き飛ばされるハプニングもあったり、根の張った雑草抜きに思わぬ労力を費やされました。

しかし、右に「雪に覆われた霊峰富士」、左に「青い海に浮かぶ江の島」を眺めながら、和気あいあい笑い声が絶えず、快適に作業は進みました。1時間弱の作業で記念館周辺は見違えるようにきれいになり、何処からともなく「やった!」との歓声が上がりました。

11時から記念館内にある礼拝堂をお借りし、参加者全員で「ウィズコロナ」、「アフターコロナ」下での望ましい活動について意見交換が和やかに進められました。

「当分、子供たちとの接触を避け、記念館周辺の美化清掃を続けよう」との結論に至りました。

コロナは人と人の絆を分断しました。しかし「湘南倶楽部の仲間意識は分断されることはなかった」と感じさせられる作業となりました。



澤田美喜記念館前にて

## 荒川の河川敷清掃に参加しました

### 本部事務局

2021年11月13日(土)、三井V-Net 会員と事務局の4名に加えて新日本空調グループから7名のお申し込みを受け、三井V-Net として計11名で荒川の河川敷清掃に参加しました。

この行事は「荒川クリーンエイド・フォーラム(略称ACF)」が主催するさまざまな清掃作業のうち、「下平井水辺の楽校清掃」という名称で毎年春と秋の2回開催されているもので、三井V-Net は毎年この2回に参加しています。

コロナ禍により昨年秋と今年の春は三井V-Net として参加を見送っていましたが、新規感染者数が減少し緊急事態宣言も解除されたこと、屋外の広い場所での行事であることから、感染防止に十分注意した上で参加することにしました。

当日は好天に恵まれ、三井V-Net からの11名の他にも多くのボランティアが集まり、合計80名での作業となりました。

ACF からの説明、注意事項などを聞いた後、参加者一人一人がトングとごみ回収用の袋を持って河川敷に散らばり、さまざまなごみを回収しました。やはりプラスチック系のごみが最も多く、次いでペットボトルが目立っていました。そのほかにはガラス瓶、空き缶、粗大ごみなどが集められ、1時間余りであっという間に大きな袋64個、粗大ごみ9個が回収されました。

三井V-Net の参加者で毎回行ってきた終了後の親睦会は今回念のため中止としましたが、コロナで外出を控えてきた参加者たちは、短時間ではありましたが久しぶりに青空の下で体を動かして、とてもすがすがしい気分を味わえたようでした。



終了後、新日本空調グループの方々(一部)と

コロナ禍で留学生の来日ができない状況が続いていますが、一日も早く留学生が以前のように日本に来られる日を祈る思いです。そして再び人と人との交流が復活する日を楽しみに待ちたいと思っております。



2018年 筆者(中央)がニューヨーク旅行滞在時に訪ねてくれた元駒大留学生の朱さん(右)と湯さん(左)

### 【朱 慧さんからの寄稿文】

2010年に駒澤大学に留学した朱慧です。出身校の華東師範大学は駒澤大学と長年交換留学のプログラムがあります。留学前に先輩から三井V-Net という団体の活動に「ぜひ参加してください」と勧められて、留学していた1年間、積極的に三井V-Net の活動に参加しました。

週に1回高橋先生から日本語や日本文化等を教えていただき、留学中の悩みも相談に乗っていただきました。定期的な交流活動以外にも、時々高橋先生のご自宅にお招きいただき、色々な家族活動にも参加させていただきました。

そのおかげで、私は、日本語を磨き、日本文化を学ぶことだけではなく、暖かい家族の雰囲気を感じることもできました。

当時、私はちょうど大学4年生で、自分の将来の就職に悩みを抱えていましたが、高橋先生が建設的なアドバイスをくださいました。

帰国後、上海の日系銀行に就職することになりました。しかし、就職3年後、つくづく金融知識の不足を感じ、今度は金融先進国のアメリカに留学することにしました。

アメリカに来てから今年で5年目になります。現在アメリカで米系銀行に就職しています。日本での留学の経験は私にとって、貴重な思い出ですし、その1年間の留生活がなければ、また三井V-Net の会員の皆様に出会わなければ、今の私はありません。

三井V-Net での活動経験に感謝している私は、ここ数年積極的に多様なボランティア活動に参加しています。自分がいただいたお世話を、他の人に伝えることができれば、一番良い恩返しだと信じています。

## ～～ あの留学生は今 ～～

駒澤大部会 高橋 由美子

私は2010年4月に駒澤大学に留学生として来日した朱慧さんと1年弱の交流をしました。その後10年以上経て今も交流を続けています。

この度三井V-Net の機関誌、ホームページ等への掲載企画で、朱さんに留学中の思い出や近況を寄せてほしいとお願いしたところ、下記のような寄稿文を寄せてくれました。

## 関西支部

### エルサルバドル留学生 エミリア・カルデナスさんとの交流

北村 達 (三井住友銀行 OB)

2021年11月、三井V-Net 関西支部から神戸大学のエルサルバドル留学生とのボランティア交流を紹介され、第1回目のマッチングは神戸大学の百年記念館でお互いの自己紹介からはじまり、次回会う日時を決めました。

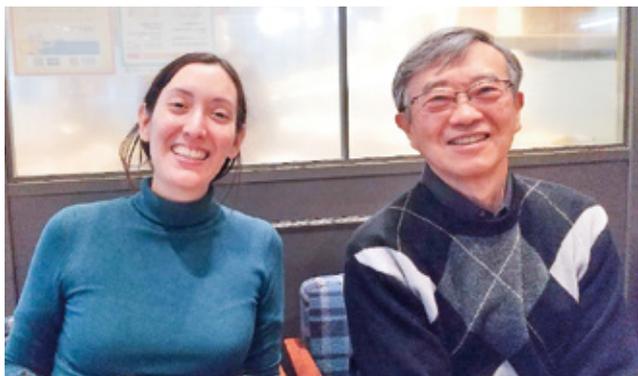
次回の交流のテーマは彼女から、「お互いの国の年末・年始の過ごし方」についてで、私は改めて、日本の年末・年始のしきたり等について調べましたが、昭和・平成・令和ではずっと引き継がれて続けているものもありますが、なくなっていくのもあり、改めて、日本のしきたり、伝統について再認識しました。彼女はスマホにあるエルサルバドルの年末年始の写真を見せてくれましたが、視覚に訴える力があり、文章よりも画像のほうがひと目でわかりやすい点に気づかされました。

次回会う1月は大阪城に行ってみたいとの要望があり、阪急梅田駅で待ち合わせ、地下鉄に乗り継ぎ、NHK大阪放送局を通り過ぎ大阪城大手門に着くと、英語ができる日本人ボランティアが近づいてきて、英語による説明をし始めると、彼女はスペイン語、英語、日本語もできるので、良く理解している様子でした。

私自身大阪市に生まれ育ちましたが、大阪城・天守閣には50年近く上がったことがなく、中に入るといろいろ昔の展示品があり、天守閣の上からは大阪市内が一望できる素晴らしい景色に、改めて大阪城を再認識しました。

エルサルバドルは日本の製造業の中南米における最初の投資国で、50年以上前から行われています。日本の自動車の中南米における最初の代理店もこの国で、親日の人が多いのもうなずけます。

最後に留学生との交流はまだ端緒ですが、今後、留学生交流ボランティアの活動という機会を生かし、私自身も向上し、さらに、今後お互いの国をよく知ることができ、微力ながらも日本に留学して良かったと思える人を一人でも増やせたらと思っています。



エミリアさん(左)、筆者(右)

### 神戸旧居留地ウォーキングツアーに参加して 三井V-Net ボランティア 北村 達さんとの交流

神戸大学留学生 エミリア・カルデナス(エルサルバドル)



「ウォーキングツアー」集合写真 前列左から2人目が筆者

2021年11月6日に三井V-Net 関西支部が主催した「神戸旧居留地ウォーキングツアー」に参加しました。イベントはとても素晴らしく、私はほとんどの日本人ボランティアやイベントに参加した他の神戸大学留学生の何人かと英語で話しました。ボランティアは、神戸の歴史についてエピソードを交えて教えてくれました。私たちの住んでいる街がもっと好きになりました。

イベントの最後に、三井V-Net からボランティアとマンツーマンで日本文化や日本語についての交流プログラムの説明があり、興味があったので応募しました。それが2021年12月に北村さんと出会った私の旅の始まりです。

月に1、2回、感染防止対策をして北村さんと会い、日本とエルサルバドルについて日本語で話し合っています。私たちはカフェや観光地に行き、私たちの国の習慣、仕事生活、そして日常生活の側面について話します。彼はとても親切で、いつも会う場所や日本文化についてチラシを準備してくれます。

この文化交流プログラムに参加できてうれしいです。北村さんとの会話を楽しんでいます。また、日本の文化について多くのことを学び、私の国であるエルサルバドルについても共有しています。

この活動により、私たちは多くの文化の違いや類似点について話し、それぞれの文化をよりよく理解することができました。次回の北村さんとの交流を楽しみにしています。



大阪城にて

## 2021年 秋の須磨海岸 ビーチクリーンアップ活動に参加して

河合 邦雄 (三井住友銀行 OB)



左端筆者

新型コロナウイルス感染症対策により昨年に続きボランティア活動が中止になっていましたが、2年ぶりの2021年10月16日にビーチクリーンアップ活動が開催となり参加しました。

特に今回は、感染防止のために各自マスク着用、検温、アルコール消毒の実施と参加者が密にならないよう参加人数も限定されての開催でした。

当日は、海中の海藻や植物プランクトンの光合成によって吸収・貯蔵する炭素を指すブルーカーボンの理念を啓発する神戸市協働『ブルーカーボンフェア at Suma Beach』として開催され、全体で約150名、うち三井V-Netからは13名参加しました。

秋らしい青空の下、日差しも強く汗ばむ陽気でしたが、久しぶりに会った同僚とも会話が弾み、ごみ拾いもあるという間に予定の1時間が経過しました。

今年も須磨海水浴場の開設が見送られた影響もあり、ごみの量も例年に比べてやや少ないように感じました。

神戸が誇る美しい須磨海岸の景観を維持するためにも、ボランティア活動の必要性を感じています。

感染防止対策として、各自でマスク着用、活動前の検温と手指のアルコール消毒、実施中の距離の確保、また熱中症防止のため密にならない場所ではマスクを外すなどの配慮も行いました。

遠くには関西空港へ続く高架橋を電車が走り、一見すると映画に出てきそうなきれいな海岸ですが、いざ近づいてみるとたばこの吸い殻や花火の燃えかすを中心に、ごみがたくさん落ちていました。前回もそうでしたが、いざ始めてみると時間を忘れて夢中になり、約1時間の活動はあっという間に終わりました。

今年初めて参加した社員からは、「海岸をはだしになって遊んでいる子供たちを見て、とても有意義な活動だと感じた」という声があり、新鮮な意見に私もあらためて参加して良かったと思えました。

これまで毎年300名位の参加者となっていたのですが、今年は総数17名の参加となりました。

来年は新型コロナウイルスも終息し、以前のようにたくさんの人たちと一緒に活動できることを楽しみにしています。



筆者



三井住友建設社員の参加者

## 2021年 秋の二色の浜 コロナ禍でのビーチクリーンアップ活動

鈴木 順一 (三井住友建設 現役)

昨年は新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、今年2021年10月9日に規模を縮小するものの開催されるということで、会社の若手社員と共に2年ぶりに参加させていただきました。10月に入ったにもかかわらず、暑いくらいの良い天気、こまめに水分補給をしながらのビーチクリーンアップ活動です。

## 旧三井家下鴨別邸でのボランティア活動

井上 由紀子(登録会員) 江馬 和子(登録会員)

2016年10月に公開と同時に始めた旧三井家下鴨別邸でのボランティア活動も、月2～3回と少ないながらも5年が過ぎました。

はじめは何をしたらいいのか戸惑いながらウロウロするばかりでしたが、三井家の歴史や建物の特徴などを知るにつれ、その奥深さに触れることができ、来館者の皆様には少しでも伝えられたらとの気持ちをもってお話し



せていただいています。スムーズとは言えない説明ですが、喜んでいただいた時にはやりがいを感じます。

とにかく案内箇所が多いので、少しでも沢山見ていただけるような案内を心がけています。また季節に合わせた京都の銘菓でもある鶴屋吉信さん、老松さんの芸術的なお菓子を、これも京都の中でも歴史ある茶舗一保堂さんのお抹茶と共にお出した時には「きれい」「おいしい」と写真を撮られることも多くあり、提供した私たちのうれしさも倍増です。

これまでに出版された2回の緊急事態宣言解除後の活動では、マスクの着用はもちろんのこと、手指の消毒、テーブルや椅子・飛沫防止アクリル板の除菌等を行っています。

また一階座敷のガラス戸の大部分は開け放されており、冬は少し寒いですができる限りのコロナの安全対策を行い、安心して観覧していただいています。

最近では雑誌やテレビで紹介されることも増えて、庭の美しさや歴史ある建物を多くの人に知ってもらえるようになりました。二階座敷や庭では結婚式や成人式の前撮りをされる方も多くなりました。景色を楽しみながらゆったりとした空間の中で撮影していただくと、人気があります。

また心待ちにされているイベントとして特別公開があり、普段見ることができない二階と三階の望楼に上がって眺望を楽しんでいただけます。

そのほかにも朝食プランやランチプラン、講座などの楽しい企画が沢山用意されています。

ぜひこの旧三井家下鴨別邸で非日常的な時間を過ごしていただけたらと思います。



井上さん(左)、江馬さん(右)

## 中国支部

### 起業塾で塾生(元留学生)との交流

新山 敏彦(東芝ライテック)

東芝から半導体事業部の米国駐在員として1人事務所に赴任した際、代理店の社長一家にビジネスのみならず生活全般に関わることで助けてもらった経験から、今度は自身が在日外国人で困っている人に何かできないかとの思いで、三井V-Netに紹介してもらった一般社団法人グローバル人材ネットワークの扉を叩いてみました。その団体は入ってみると、広島で起業をしようとしている外国人の手助けをするという日本でも大変な目標を持った団体でした。

塾生たちは、日本語能力が非常に高く、大学院卒、博士号を持っている高度人材といわれる方で、母国の人たちのためにと社会的意義を持った起業にチャレンジしており、ウズベキスタン人、インド人、中国人、韓国人、台湾人など多国籍な陣容で、またそれを支える日本人も外国人材コンサルタント、国際弁護士、大学の先生、福祉施設の理事、IT企業の社長などいろいろな人が関わっており、行政、銀行、マスコミなどに幅広い人脈があり、2021年11月28日にイノベーション・ハブ・ひろしまCamps(キャンパス)で行われた最後の起業案発表会にも多くの方が参加されていました。

私自身は特段の技能・資格・人脈がない中、休日にボランティアとして、外国人が参加しやすい環境作り、また自身の経験に基づくコメント・アドバイスを行ってきました。会社だけでは会えない方々と出会い、自身の勉強、また非常に刺激となった活動となりました。

今後も人生少しでも豊かにすべく、自身が社会貢献できることにチャレンジしていきたいと思います。



レンゲツツジ植樹に参加(筆者右から2番目)



## 広島市ボランティア情報センター利用者連絡会・交流会に参加して

津郷 千恵 (三井物産 OG)

2021年10月24日、広島三次ワイナリーにて開催の広島市ボランティア情報センター利用者連絡会へ参加するために前日の23日、香川県から広島市にきました。翌日、広島市民病院の近くの歩道で8時半に集合、参加者24名位で2台のバスで三次ワイナリーへ10時頃到着しました。

三次ワイナリーに到着すると早速参加グループの紹介があり相互の交流を深めるとともにビンゴゲームで盛り上がり、次にバーベキューを参加者全員でいただきました。お肉がとってもおいしくて、中国山地の自然豊かな環境の中で優れた牛が生まれるのだなあと感じました。

また、空気や森林が日常の騒がしさを忘れさせてくれ、今回の広島市ボランティア情報センターの企画が大変良いものだと思います。

三井V-Net 中国支部に香川県から少し遠いのが残念ですが、今後病院ボランティアで頑張っまいります。



三次ワイナリーにて (筆者右端)

## 広島県社会福祉協議会より会長表彰される

中国支部事務局

令和3年度社会福祉大会において、永年にわたる福祉活動への協力に対し、広島県社会福祉協議会より三井V-Net 中国支部が会長表彰をいただきました。

ボランティア会員の皆さまの福祉活動に対するご理解とご協力にあらためて感謝申し上げます。



## 事務局便り

### 2021年度「三井V-Net」名義によるダ ルニー奨学金への支援報告

事務局

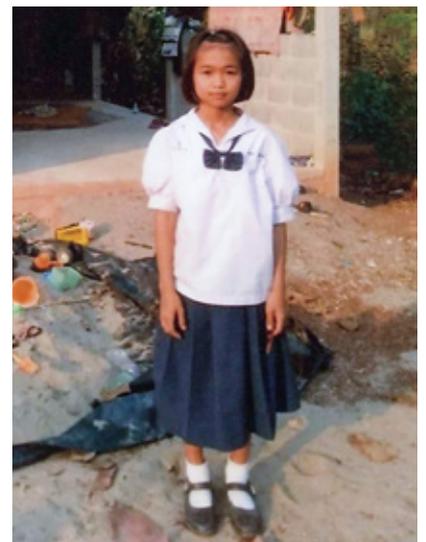
設立当初より三井V-Netでは公益財団法人国際センターにて展開されている国際教育里親型支援「ダルニー奨学金※」に充てるため、その原資となる書き損じ等による日本郵便製未使用はがきや未使用切手のご提供を呼びかけております。

2020年の一年間にご提供いただいた原資物品は、誰もが未曾有の困難に立ち向かっているコロナ禍にもかかわらず、多くの思いやりのお気持ちにより例年と遜色のない量を賜り、2021年度も東南アジアのタイ国にて経済的に恵まれない4名の子どもたちに(全員卒業までの学費も確保済)中学校における基礎教育の機会を提供することができました。

会員の皆さまのみならず、運営会員会社の部署単位や各社OB会の皆さま、そして三井V-Netのホームページやニュースレターによりこの活動を知っていただいた多くの方々の温かいご協力に、現地の学生に代わりまして心より厚く御礼申し上げます。

学生ひとりの一学年に必要な奨学金の額は14,400円であり、たとえば額面60円のはがきであれば換金すると44円となり328枚もの枚数が必要となります。個人で集めるには相当な量ではありますが、おひとりおひとりによるご提供が三井V-Netにて集約することにより大きな支援となります。

皆さまのご理解のもとご家族やご友人にもお声がけいただき、変わらぬご協力を引続きお願い申し上げます。



2021年度に新1年生となった生徒  
(卒業までの学費は確保されています)

※ダルニー奨学金に参加することにより支援する子どもの報告書(写真とプロフィール)が届き「顔が見える、成長が見守れる、1対1の教育支援」として身近に実感することができます。

子どもには支援者のお名前が送られます。

(公益財団法人国際センターホームページより)

編集責任者：西本 宏永

# 物品ご提供による支援のお願い

三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。

ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し、東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほか、インド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として役立てております。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもぜひお声がけ願います。

ご協力を心よりお待ちしております。

## ご提供 いただきたい 物品

- 日本郵便製未使用（書き損じ含む）はがき
- 日本郵便製未使用切手（海外切手は不可）
- 使用済み切手（周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います）
- プリペードカード（未使用のみ）



## ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部  
もしくは各支部あて  
(本ページの下住所、電話番号をご覧ください)

## 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

## 参加いただけるボランティア活動

- ① 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)
- ② 環境保全(河川敷・海岸等の清掃、水源林地域保全活動)
- ③ 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)
- ④ 福祉(福祉施設内の清掃・音楽会、福祉団体主催イベントでのお手伝い等)
- ⑤ 文化・教育(文化施設でのお手伝い等) ※関西・中国支部のみ
- ⑥ スポーツ支援(マラソン、ゴルフ会場での支援) ※関西・中国支部のみ

入会ご希望の方は、三井V-Net ホームページ (<http://www.mv-net.com/>)  
よりご登録をお願いいたします。

三井ボランティア

検索



## 三井ボランティアネットワーク事業団

本 部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階  
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル3階  
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 中川ビル5階  
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101